

京都腎臓医会 副会長

かぎもとクリニック 院長 鍵本伸二先生



この度京都腎臓医会副会長を仰せつかりました鍵本と申します。京都市北区で開業している糖尿病専門医で、腎臓専門医ではありませんが糖尿病と腎臓は切っても切れないご縁がありますので、京都腎臓医会の設立時から参加させて頂いております。

腎臓医会が出来た

ことで糖尿病内科医と腎臓内科医の連携がより緊密かつスムーズになることを目指して、初代武田会長の時には和田成雄先生が、2代目家原会長の時には長谷川剛二先生が糖尿病専門医の立場から副会長に就いておられましたが、このたびハ田先生が新会長に就任されるにあたって私にお声がけ頂きました。

ハ田会長とは、先生が京都に戻られた直後から、糖尿病医会や腎症重症化予防など仕事関連の部分だけでなく、共通の趣味であるスキーを通して私的にもお付き合いさせて頂き、そのアクティビティの高さには常々圧倒されてきました。

正直なところそのパワーについて行けるか戦々恐々ですが、より一層の連携強化を通じて京都の腎臓病ならびに糖尿病医療のレベルアップに貢献できるよう、精一杯努めさせて頂く所存です。皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



京都民医連中央病院 病院長 木下千春先生



この度、ハ田会長のもと、京都腎臓医会副会長に再任いただきましたこと、誠に光栄に存じます。会員の皆様には、日頃より本会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

家原会長の下で副会長を務めさせていただきましたこの四年間を振り返りますと、就任当初はまさにコロナ禍の最中にございました。しかし、Webを活用した講演会や会議が大きく進歩し、これまでにない形での学術交流が可能となりました。また、SGLT2阻害剤のCKD適応拡大やHIF-PH阻害剤の登場による腎性貧血の進化などCKD治療も大きく進展いたしました。家原会長のご指導をいただき、会員の先生方と共に活動させていただきましたこの四年間は、至らぬ点も多々ございましたが、私にとって非常に貴重な経験となりました。

現在、各ワーキンググループの精力的な活動により、京都での腎疾患対策が一歩一歩進んでおります。一人でも多くの患者さんの透析導入を回避するため、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの推進、啓発活動や患者教育、およびCKD地域連携の強化など、オール京都で取り組むことがこれからも求められております。また、小児腎臓病医療の推進とスムーズな成人移行、腎移植医療の充実、さらには高齢者PD地域連携の普及や、糖尿病、泌尿器、循環器など各専門医会との緊密な連携も重要です。加えて、腎臓病療養指導士をはじめとした専門スタッフの養成、若手医師の育成、最新の医療情報の共有など、取り組むべき課題は多くございます。

ハ田新会長の清新で強力なリーダーシップのもと、京都腎臓医会がさらなる発展を遂げることを大いに期待しております。私は副会長として、他の副会長の先生方と一致協力し、ハ田会長をお支えし、会員の皆様と共に、京都の腎臓医療の更なる発展のために微力ながら貢献させていただく所存でございます。

今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。